

そよかせ

通信



2022年4月 No. 12

発行責任者
北本市議会議員 **金森すみ子**

連絡先 金森すみ子とあゆむ会

北本市東間 8-230-172

電話・Fax 048-542-8794

今年の桜は、昨年一昨年に比べ少しは身近に楽しめたでしょうか。桜を眺めている時は、昨今の世界情勢やコロナを忘れられ、心が癒されました。ありがとうございます。

今回の定例会ですが、2月中旬に市内陽性者がピークを迎える中、綱渡りの開催となりました。令和4年度予算では、市税収入が、予想外に昨年度より増える見込みです(市内企業の増収、正規雇用者の減収傾向みられず)。その一方、生活保護や、その一手手前の、自立相談支援を必要とされる方は増加傾向で、格差が拡大している状況です。

今後も、市政を注視して、市民の皆さまが安心した生活を送れるよう、努めてまいります。

令和4年第1回北本市議会定例会 (2/21~3/22)が開催されました。

市長提出議案は、令和4年度の一般会計予算・特別会計予算・公共下水道事業会計予算7件、令和3年度補正予算6件、条例改正7件でした。また、市民からの請願2件、議員提出議案1件、委員会提出議案2件、がありました。

「子どもの権利に関する条例」が制定 (施行は10/1~)

この条例では、子どもの権利の内容を明らかにし、その権利を保障し、全ての子どもが幸せな生活を送ることができる社会の実現を目的としています。議会は、令和3年6月に“特別委員会”を設置し、検討を重ねてきました。県内で2番目の制定です。

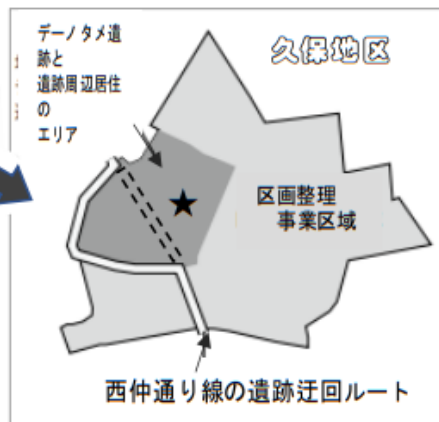
令和4年度 予算総額 376億5,789万円 修正案が可決されました

会計別予算総括表 (単位:千円、%) (※修正案 可決後の値)

区 分		令和4年度	令和3年度	増減率
一 般 会 計		※ 22,326,410	21,478,178	3.9
特別会計	後期高齢者医療特別会計	1,105,000	967,500	14.2
	久保特定土地区画整理事業特別会計	538,700	510,100	5.6
	国民健康保険特別会計	6,352,400	6,574,200	△3.4
	介護保険特別会計	5,581,200	5,392,500	3.5
	埼玉県央広域公平委員会特別会計	528	535	△1.3
	小 計	13,577,828	13,444,835	1.0
企業会計	公共下水道事業会計	1,753,652	1,725,737	1.6
総 計		37,657,890	36,648,750	2.8

※ **修正案が、議員3名から提出され、
賛成 10 反対 9 と拮抗しました**

修正案は、『久保特定土地区画整理事業』に関するものです。この事業は、北本市が抱える2つの難題の1つ（もう1つはゴミ処理施設問題）で、一年前の「令和3年度予算案」でも修正案の対象になりました。「そよかぜNo8」でも書きましたが、「デーノタメ遺跡」や「オオタカ(当時希少野生動物)」の発見もあり、20年以上も進捗せずにいます。優先するのは、「道路を通すことか」、「遺跡の保全か」、という「デーノタメ論争」が長々と続き、前市長と前々市長は、事業に手を付けずにいました。この間、当事者である対象住民は置き去りにされ、自宅をいつ移転できるかわからない為にリフォームや売却もできず、不安を抱えたままです。現在では、対象住民は高齢化し、市の財政負担が増える(国からの補助金の減少)などで、問題は更に根深くなっています。(広報きたもと令和3年11月号をご参照ください。)



▶ **修正案提出者(修正に賛成)の考えは →**

遺跡は残すが、平成8年度の最初の計画通りに、遺跡を含むエリア(図の★印)の真ん中に西仲通り線(図を参照)を通すべきだ、というものです(-----部分)。西仲通り線等の、①見直し検討業務(1,455万円)②迂回させる路線測量業務の委託(204万円)の2点の削除を求めました。

▶ **修正に反対の考えは →**

市は、既に「見直し案(区画整理と遺跡の共存)」を、議会に説明の上、対象住民に説明会を何度も行い、問い合わせにも対応している。昨年11月には広報に公表し、期間短縮(-6年)と市の財政負担の軽減(-3.5億円)を示した。市民からは反対の声も上っていない。この状況で修正をかけることは、反って事業の進行を妨げてしまう、というものです。



私は、修正案に反対しました。現市長になって、やっとではありますが、これ以上の硬直状態を避け、事業を動かそうと、前へ進めようとしています。対象住民が少しでも早く安心した生活を送れることが最優先と考え、“苦渋の策”である原案の執行を、注視しながら見守るべきとしました。議場では、修正案の提出議員からは、修正をかけることで原案よりもどんなメリットが見込めるのか、納得できる答弁は無く、“反対討論”を自身でしたものの、採決では10対9の僅差で可決されました。議会では、“市民のために”という言葉がよく使われます。議員生活を過ごすに連れて、「市民のためって何なのだろう?」と不可解で虚しく思うことが増えてきました。悩ましいです。

◀ **令和4年度の主な事業** ▶

▶ **新中央保育所(仮称)を建設します 6億1,749万円**

老朽化した中央保育所と栄保育所を統合し、新たに旧栄小の校庭に建てられます。自然の光や風を取り入れる設計により、エネルギー消費を抑え、快適な空間を作る

設計となっています。(令和5年夏頃の開所予定、定員116名)

▶ **通学路の安全対策事業 5,606万円** [新規]

昨年6月、千葉県八街市で、下校中の児童の列にトラックが突っ込むという痛ましい事故が起きました。北本市では、通学路の安全対策を講じるよう国から指示を受け、各学校の通学路点検を実施し、69箇所が危険と指摘されました。市が対応できる箇所について、解消に向け取り組むとのことです。

(危険性・利用頻度の高いところから、道路の舗装・補修工事、ポール・グリーンベルトの設置)

▶ **北本駅東口駅前広場の屋根かけ整備を進めます 1,500万円** [2年目]

安全で快適に利用できる駅前広場になるよう、令和3年度は基本計画を策定しました。、令和4年度は工事の詳細設計を行います。

▶ **九都県市合同防災訓練を開催します 1,089万円** (8/28の予定)

埼玉・千葉・東京・神奈川の4都県と、さいたま・横浜・川崎・相模原・千葉の5市で、持ち回りで行われており、今年度は北本市の総合公園が会場となります。消防・警察・自衛隊・各インフラ機関等だけでなく、自主防災会・自治体の参加を予定しています。大人から子どもまで楽しみながら訓練に臨めるとのことです。



▶ **住宅リフォーム補助金を交付します 600万円** [新規]

空き家予防を目的として、個人が所有する築10年以上経過した、戸建て・分譲マンション等のリフォーム工事に、市内事業者の利用を条件に、補助(工事費の5%)を行います。(補助限度額 → 10万円ですが、同居を目的とした場合は15万円)

市内事業者の利用で、地域経済の活性化や雇用の創出ともなります。また、子どもや高齢者の居場所づくりを目的としたリフォームも対象になり、親子同居の支援だけでなく、共生社会の構築につながるものと期待します。

▶ **「石戸蒲ザクラ」国指定100年記念事業 103万円**

蒲ザクラは、日本で最初に国指定された5本の桜のうちの1本です。古木・巨樹・希少樹種で、源範頼(頼朝の弟・大河ドラマにも登場)の伝説があるとのこと。展示会やシンポジウムを予定しています。(10/4~15)



国民健康保険料が変わります (令和4年度~)

『国民健康保険』には、主に自営業の方が加入していますが、健全な運営を図るために、定期的に保険料の改定を行います。令和4年度からは、「医療分」の“資産割”と“平等割”を廃止し、“所得割”と“均等割”のみの「2方式」に移行します。

	医療分	支援分	介護分
所得割	7.50 → 7.30%	3.10 → 2.90%	1.90 → 2.20%
資産割	15.00 → ×		
※均等割	11,500 → 29,900円	6,200 → 10,200円	12,700 → 14,700円
平等割	5,000 → ×		

未就学児は半額

令和3年度ふるさと納税は、8億 5,950万円に

前年度の6億6,008万円と比べ、1.3倍となりました。(件数は1.4倍の5,590件)

金森すみ子の一般質問

【 公共施設の管理運営について 】

問 市は、健全な財政運営を持続していくために、「公共施設等総合管理計画」に従い、施設の統合化・複合化に向います。公共施設を縮小しながらも、充実される
ことが必須であると考えますが、その見込みについて伺います。



〔背景〕市は、1970年代の人口増加に合わせて、公共施設を整備してきました。現在では、多くの施設が築40年近くを経過し老朽化しています。一方で、少子高齢化による人口減少時代を迎え、今後は、民生費（障がい者や高齢者の福祉など）の増加、納税者が減ることでの税込減少が予測されます。先々の公共施設の維持・更新は、困難な状況になると見込まれ、市は、「公共施設の延べ床面積を今後40年間で50%削減」の目標を掲げています。

答 将来、児童生徒の減少により閉校となった学校に、他の公共施設の機能を移転していくことを想定しています。この統合・複合化で、高齢者や子供の居場所づくり、利用者相互の
継ぎ目のない交流や、新たな交流のきっかけづくりを促します。公共施設が本来持っている、住民が集う・つながる機能の充実を図っていきます。旧栄小学校には、勤労福祉センターやコミュニティーセンターなどの機能の複合化を行います。更に、防災倉庫の新設や
体育館への空調設備の設置など、広域避難場所としての機能をより高めていくことなども
検討しています。

要望 この公共施設の管理計画は40年の長期に及び、見通すことは難しく、40年先を見届けられる職員もいません。どの自治体も頭を悩ましているところです。“通い辛くなる利用者”の交通手段についてもまだ不明瞭で、市に対し、社会情勢などに注視しながらの随時見直しを、責任をもって行うよう求めました。また、財政負担の軽減のためには、面積の削減だけを追うのではなく、保守点検管理の在り方にも改めて目を向けるなど、
“施設のコスト削減”に努める必要があります。

“使用済み紙おむつのリサイクル”を見学しました (3/25)



北本市では現在、紙おむつは焼却処分しています。今後は、高齢者の紙おむつ需要が増え
ると予測され、ごみ焼却炉の負担増（費用は税金）や地球温暖化ガスの発生が問題と
されます。そこで、“パルプ再生”や“固形燃料化”などのリサイクルの取組が注目されています。

寄居町の大型介護事業所「あかつき苑」では、“燃料化処理”をしています。水分の多い紙おむつを温風処理して、①水分は10%以下になり、重さが元の1/3に②気にならない臭気に③十分な滅菌で安全性は高く④処理後の成分は燃料用に適合（扱いやすい大きさに裁断）、となります。「あかつき苑」では、④を薪に加工して、事業所内での使用を考えており、将来は、事業系のごみを全て施設内で利用する「ゼロエミッション」を目指すとのことでした。

このような紙おむつリサイクルは、大型の事業所では、費用面や環境の安全性についても、有効であると考えられます。市には、この事例のように、時代に合った“新たなごみの処理方法”について
取り組んでいけるよう、調査を進めてもらいたいと思います。